

# 第5次中区地域福祉活動計画

実施期間

令和6(2024)年度～令和10(2028)年度

みんながつながり 笑顔ひろがる  
まちがここ





中区には長い歴史の中での貴重な遺産と、新しい近代的な設備なども多く、その両方が入り混じりさまざまな側面から奥行きを見せながら、文化や歴史を引き継ぎ代々暮らす人々、その魅力に魅せられて越してくる新しい住民層、また外国人の方々など、多様な人たちが暮らし、共生しながら発展を続けていく大変奥深い魅力のある地域です。このような特徴を持つ中区にどのような地域社会がふさわしい姿かをワーキンググループメンバーが熱心に考え、検討して完成したのが、今回の「第5次中区地域福祉活動計画」です。

計画は、中区の特性をメンバーの皆さんが十分に噛みしめながら熟慮いただき、この特性を生かすことができる中身に仕上がっております。しかし、これから先は、この計画を実施していくためにより多くの力が必要となります。区民の皆様にはより多くの果実を実らせるために多大なご協力とお力添えをいただることを望んでおります。まさにこの計画で謳っているテーマ、「人(担い手)」、「居場所」が多様に、たくさん「つながり」合いながら豊かに希望を持って生きていくことができるような地域になりますことを祈願してあいさつとさせていただきます。

令和6年8月

社会福祉法人名古屋市中区社会福祉協議会

会長 玉越 博





# 目 次



<b>① 「地域福祉活動計画」とは</b>	1
<b>② 中区の現状</b>	2
(1) 中区の年代別人口	2
(2) 5次計画の策定にあたって	3
<b>③ 第1次～第4次計画までの活動</b>	8
<b>④ 第5次計画の方向性</b>	10
<b>⑤ 計画の内容</b>	12
(1) 体系図	12
(2) 各実施項目	13
<b>⑥ 計画の推進体制と評価</b>	19
<b>⑦ 資料</b>	20



# 1 「地域福祉活動計画」とは



## (1) 地域福祉活動計画とは

私たちは住み慣れた地域で生活していくにあたり、誰もが安心・安全に暮らしていくことを望んでいます。しかし、地域には、子育て、介護、災害等、さまざまな課題があり、近年では近隣どうしのつながりが薄れ、さまざまな福祉課題に直面している住民がいます。この「地域福祉活動計画」は、これらの福祉課題を地域が持つ力を活かし、この「地域福祉」を具体化するために、地域住民や相談支援機関、団体、社会福祉法人、福祉サービスをはじめとした事業者、行政機関、社会福祉協議会が相互に協力して策定する民間の活動・行動計画です。

### <第5次計画策定のねらい>

第5次計画の策定にあたっては、これまでの計画に引き続き、「『中区らしさ』とは何か?」を考えながら、マンション・団地の多い都心部での特性や昼間人口の多さ、区内在住の外国人の数等を踏まえ、「第4次計画に込められた思い」を引き継ぎながら、検討を進めました。

### <関連計画との関係>

名古屋市においても地域福祉を推進する行政計画として策定する「名古屋市地域福祉計画」があり、各区の地域福祉活動計画は、「なごやか地域福祉(地域福祉計画と地域福祉推進計画)」と提案・支援関係にあり、相互に補いながら推進する位置づけとなっています。

なお、推進4年目となる「なごやか地域福祉2020」は、市民、地域福祉活動や市民活動の実践者、関係機関等の意見を反映しながら、名古屋市の「地域福祉計画」と名古屋市社会福祉協議会の「地域福祉推進計画」が一体的に策定されたもので、令和2年度から推進されています。また、それを引き継ぐ「なごやか地域福祉2029」も現在、令和7年度からの実施期間に合わせて「なごやか地域福祉2020」同様、一体的に策定が進められています。

### <計画の期間および計画の見直し>

本計画の期間は、令和6(2024)年度から令和10(2028)年度までの5年間です。

計画策定後は各ワーキンググループでテーマに沿って具体的に取り組んでいくこととなります。また、3ワーキンググループ合同の会議を開催(年1回程度)するとともに、定期的に進捗状況を精査したうえで、必要な場合はこの計画の見直しを行います。

## 2 中区の現状



### (1) 中区の年代別人口

中区は、名古屋市の16区中、面積、人口は14番目、世帯数は10番目という区です（令和6年2月1日現在）。

ここでは、中区全体と学区ごとの年代別の人囗データと5次計画ワーキンググループのメンバーが感じている「中区の特徴」という観点から中区の現状を記します。

#### 中区における年代別人口の状況

令和5年10月1日現在

区分	中区		構成比
総人口	99,348	人	—
うち15歳未満	5,961	人	6.0%
うち15～64歳	74,101	人	74.6%
うち65～74歳	8,625	人	8.7%
うち75～84歳	6,856	人	6.9%
うち85歳以上	3,805	人	3.8%

※中区役所発行「中区の世帯数と人口」より抽出



## 中区の学区別、年齢(10歳階級)別人口【公募人口】

【単位：人】  
令和5年10月1日現在

学区	総数	0~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	年齢不詳
中区計	95,235	4,684	4,183	21,254	17,120	13,405	12,584	8,375	7,769	5,860	1
	100.0%	4.9%	4.4%	22.3%	18.0%	14.1%	13.2%	8.8%	8.2%	6.2%	0.0%
名城	6,479	369	348	1,305	1,135	985	930	553	484	370	0
	100.0%	5.7%	5.4%	20.1%	17.5%	15.2%	14.4%	8.5%	7.5%	5.7%	0.0%
御園	3,953	247	166	724	830	683	573	315	253	162	0
	100.0%	6.2%	4.2%	18.3%	21.0%	17.3%	14.5%	8.0%	6.4%	4.1%	0.0%
栄	9,846	445	413	1,800	1,697	1,551	1,549	1,043	792	556	0
	100.0%	4.5%	4.2%	18.3%	17.2%	15.8%	15.7%	10.6%	8.0%	5.6%	0.0%
新栄	11,835	411	403	3,708	2,236	1,441	1,317	858	768	692	1
	100.0%	3.5%	3.4%	31.3%	18.9%	12.2%	11.1%	7.2%	6.5%	5.8%	0.0%
千早	5,451	250	208	1,634	1,008	629	587	438	374	323	0
	100.0%	4.6%	3.8%	30.0%	18.5%	11.5%	10.8%	8.0%	6.9%	5.9%	0.0%
老松	13,790	612	381	3,442	2,814	1,779	1,648	1,123	1,147	844	0
	100.0%	4.4%	2.8%	25.0%	20.4%	12.9%	12.0%	8.1%	8.3%	6.1%	0.0%
大須	8,186	296	332	1,816	1,340	1,171	1,129	706	764	632	0
	100.0%	3.6%	4.1%	22.2%	16.4%	14.3%	13.8%	8.6%	9.3%	7.7%	0.0%
松原	7,379	463	427	1,413	1,216	1,148	943	670	642	457	0
	100.0%	6.3%	5.8%	19.1%	16.5%	15.6%	12.8%	9.1%	8.7%	6.2%	0.0%
橘	12,207	674	632	2,207	2,091	1,794	1,669	1,193	1,138	809	0
	100.0%	5.5%	5.2%	18.1%	17.1%	14.7%	13.7%	9.8%	9.3%	6.6%	0.0%
平和	8,206	367	321	1,851	1,522	1,113	1,096	732	704	500	0
	100.0%	4.5%	3.9%	22.6%	18.5%	13.6%	13.4%	8.9%	8.6%	6.1%	0.0%
正木	7,903	550	552	1,354	1,231	1,111	1,143	744	703	515	0
	100.0%	7.0%	7.0%	17.1%	15.6%	14.1%	14.5%	9.4%	8.9%	6.5%	0.0%

※中区役所発行「中区の世帯数と人口」より抽出

### (2) 5次計画の策定にあたって

策定のキックオフとなる1回目のワーキンググループ全体会において、中区の特色をよく知る5次計画ワーキンググループのメンバーから「こんな中区(まち)になるといいな!」というテーマでたくさん意見を出してもらいました。



# 「こんな中区(まち)になるといいな!」

## ～第1回第5次計画ワーキンググループ全体会より抜粋



### 項目1 外国人

課題 (気になるところ)	<ul style="list-style-type: none"><li>●家賃が安くて古いマンション、アパートに留学生など若い外国人がたくさん住んでいる場合が多いのではないか。</li><li>●外国人理解の啓発が必要である。</li><li>●外国人が学校に増えると日本人が転校してしまう場合があるが、共存できないのか。</li><li>●学校の授業を難しく感じたりする子どもがいる。学習支援、夜間中学等が必要でないか。</li><li>●外国人の子どもで高校に入れず、職業の選択肢の幅が狭くなる子どもがいる。</li><li>●引っ越してくる時期によって、入学時期と合えばよいが、そうでなければ、日本のことや地域のこと、学校のことまで知る機会を逸することがあり、その後、孤立した生活を送ったり、そのまま次へ越してしまうこともある。</li></ul>
方策 (こうなつたらいいな)	<ul style="list-style-type: none"><li>●同じアパートに住んでいるおじいちゃんおばあちゃんとマッチングして何かできないか、お互いで見守るような地域の担い手になってもらいたい。</li><li>●子どもだけでなく、日本人の保護者にも外国人への理解を深める必要がある。</li><li>●ボランティア活動する外国人が増えて、担い手、環境問題(クリーンキャンペーンに参加してもらう等)への取り組みもしてもらえるとよい。</li><li>●外国人と日本人が交流する機会を定期的に設けられるとよい。</li><li>●例えば、年度途中の場合でも、受け入れてもらえる場所とか相談先があるとよい。</li></ul>



# 「こんな中区(まち)になるといいな!」

～第1回第5次計画ワーキンググループ全体会より抜粋



## 項目2 つながり

2

中区の現状

### 課題

(気になるところ)

- 高齢者で区外から越してくる方が多いということで、つながりが無い、孤立している、頼れる人がいないことが多い。そういう意味で独居高齢者や孤立も多いのではないか。
- 敬老バス制度があるということで、名古屋市へ越してくる高齢者もいる。
- 中区は転出入が多いので、人が入れ替わりつながりを作りづらい。
- 子ども世帯は交流しているが、高齢者はつながりが少ないのではないか。
- 紙媒体でも情報がなかなか広がらない、SNS、インターネットは高い年齢層ほど伝わらない、情報を出す側としても届いている感があまりない、これだけ相談する機関が増えても、そういうところにつながることのできない人がいたりするので情報発信の仕方は非常に難しい。
- 住民の格差どうするか、高級マンションからホームレスの方々まで幅広いのが中区の特徴である。

### 方策

(こうなったらしいな)

- 声をかけ合える、顔の見える地域づくり、マンション内での交流があるとよい。
- 種別年代問わず、障がい者を含めたサロンや子ども食堂を、毎週でも同じ場所で定期的に開催できるとよい。
- 子ども食堂だけでなく児童関係の施設や団体が集う場や、障がい者がボッチャ等を通じて交流を図れるイベントなどがもっとあればよい。
- イベント、行事等でのボランティア活動参加で、つながりができるとよい。
- 困りごとを相談しやすい地域づくり。
- 義務感なく自然と楽しく集まることのできる場づくり。ただ集まるだけの場所もいいかも。
- 趣味活動をきっかけにサロンが生まれるとよい。
- マンションでも、若い頃から育児を通じて仲良くしてきた人たちが、高齢者になった今でもつながりがある。よって、若い親世代などが、母親同士でつながって取り組みを続けていけば、将来的にもつながりを継続していくのではないか。なので高齢者ばかりに目を向けてないで、若い世代に対して何か仕掛けるとよい。
- 困ったときにどこに相談できるか分かるSNSや動画のツールがあるとよい。
- インターネットが使えない人にも届く情報ツールがあるとよい。
- インターネットや紙媒体にせよ、まとめて「これをひとつ見ると分かる」というようなものがあればよい。



# 「こんな中区(まち)になるといいな!」

## ～第1回第5次計画ワーキンググループ全体会より抜粋



2

中区の現状

### 項目3 担い手

<b>課題</b> (気になるところ)	<ul style="list-style-type: none"><li>● 担い手(活動者)が増えない。</li><li>● 学生とつながりができにくい。</li><li>● ボランティアが不足しており、集まらない。</li><li>● 町内会に参加する人が少ない。</li><li>● 地域の担い手の高齢化。</li><li>● イベント等で何かいいことがあるということで来所者は増えるが、担い手側として何かやろうよとお誘いすると引いてしまうことが多い。</li><li>● 自分がすごいができるのに自覚の無い方も結構いる。</li><li>● 地域福祉活動を知らない人も多い。</li><li>● 働いている世代も多く、地域に関心がある人がどれくらいいるのか。</li><li>● 会社が多くあるが、働く人にもボランティア等の担い手になってもらえるとよい。</li><li>● 中区は転勤族が多く、住民が入れ替わるので、人材の定着や活動が難しい。</li></ul>
<b>方策</b> (こうなったらしいな)	<ul style="list-style-type: none"><li>● 高齢者でも趣味を持っている人はかなりいらっしゃるので、イベント、サロンを開催する中で仕掛けていくと、いろんな人材が浮かび上がってく、その中で同じ趣味を持つ人とつながりを作れるとよい。</li><li>● 学生や若い人にボランティアに関わってほしい。</li><li>● 活動者同士のつながりの場がもっとあるとよい。分野を超えたつながりが強いとよい。</li><li>● 互いに顔が見える行事計画、企画ができるとよい。</li><li>● 学生なども地域活動に(若い世代が、町内活動に)参加するとよい。</li><li>● 学生が喜んでできるイベントや交流会を開催するとよい。</li><li>● 多世代、外国人、障がい者も含めて、いろいろな方々が参加するような仕組み、多世代、多文化交流ができればよい。</li><li>● 老若男女問わず交流できる場。声をかけ合ううち、絆は挨拶から始まり、交流に変わっていけばよい。</li><li>● 企業や専門学校等があるので、そういったところと連携できるとよい。</li></ul>



# 「こんな中区(まち)になるといいな!」

～第1回第5次計画ワーキンググループ全体会より抜粋



## 項目4 個別支援

2

中区の現状

課題 (気になるところ)	<ul style="list-style-type: none"><li>●コロナ特例貸付を受けた方が引き続き困窮している。</li><li>●ヤングケアラーの子どもが多くいるのではないか。</li><li>●子ども食堂の食事は必要な家庭に届いているか。</li><li>●学校職員にも子ども食堂のことをもっと知ってほしい。</li><li>●障がい者は1日の大半を区内の施設で過ごすのに、地域との交流がない。</li><li>●中区では障がい者就労支援施設が増えている。</li><li>●施設職員はもっと学校とつながりたいと思っている。</li></ul>
方策 (こうなったらしいな)	<ul style="list-style-type: none"><li>●セルフネグレクトのような、そういう方々も含め、支援機関や支援者とつながって解決できる仕組みづくりができるとよい。</li><li>●寄付を集める。</li><li>●気になる子が地域で見守られるとよい。</li><li>●学校と地域の交流が増えるとよい。</li><li>●障がい者施設の児童を地域へつなぐ。</li><li>●障がい者を含めサロンや子ども食堂でも、毎週でも同じ場所で定期的に開催できるとよい。</li><li>●子ども食堂だけでなく児童関係の施設や団体が集う場や、障がい者がボッチャ等を通じて交流を図れるイベントなどがもっとあればよい。</li><li>●福祉教育で、学校と施設と地域のつながりづくりができるとよい。</li></ul>

## 3

## 第1次～第4次計画までの活動



ここでは、第5次計画に至るまでの4次にわたる計画実行の歴史を振り返り、4次計画までの成果と課題をどのように5次計画につなげていくかを記します。

#### <第1次計画>(平成16～20年度) 「ふくしを身近に感じるまちに」

基本方針	取り組み等
①近隣関係や地域との結びつきを育てる交流の場づくり	ふれあいいきいきサロン活動
②誰もが気軽に地域福祉活動に参加できる仕組みやきっかけづくり	在宅サービスセンターを活用した交流の場づくり
③必要な人に必要な情報を届ける仕組みづくり	福祉協力店の設置
④相談機能の強化と他の相談窓口とのネットワーク化	相談機能の強化
⑤地域における福祉教育や啓発活動の推進	親子福祉体験講座

#### <第2次計画>(平成21～25年度) 「みんなでつくる地域のふくし」

基本目標	取り組み等
①地域たすけあい・支えあいのしくみづくり	個別ニーズを把握し解決していく仕組みづくり
②地域福祉活動の新たな担い手づくり	気軽に参加できる地域福祉活動の把握と情報発信
③住民と関係機関・企業との連携・協働	住民と関係機関・企業との協力に関するニーズ把握

#### <第3次計画>(平成26～30年度) 「ともに笑顔で生きる 地域づくり」

基本目標	取り組み等
①隣に住んでいる人の顔が分かる	地域を良くする事業内容を検討し、実施を支援する
②困ったときに相談できる	地域のおたすけさんが集まる場をつくる



## ＜第4次計画＞(令和元年度～5年度) 「みんながつながり 笑顔ひろがる まちづくり」

基本方針	取り組み等
①地域に広がるつながりづくり	「顔の見える関係」と「助け合い」を生みだそう! ~マンション・団地を中心として~
②人と人とのつながりづくり	つながろう みんなにやさしい日本語で
③地域活動者・ボランティアの担い手づくり	みんなが気軽にボランティア

### ～第4次計画の成果と残された課題～

「第4次地域福祉活動計画全体会(令和6年3月5日開催)」では、5年間を振り返り、コロナ禍で実施が困難であった時期があったものの、第4次計画での活動を通じて、いろいろな人たちや団体等とのつながりができ、輪が広がったことが確認できました。今後は、それらの輪をさらに広げるため、まだ私たちの知らないような新たな団体や個人とつながりを広げていくことが大切であることを認識しました。

一方で、近隣関係の希薄化による孤立した方の増加や、マンションのオートロック化による訪問活動の難しさへの対応に伴う、見守り活動やふれあいネットワークづくりの難しさを痛感し、今後の課題として引き続き次期計画においても取り組んでいくことを確認しました。



「第4次地域福祉活動計画全体会」の様子

### ～第5次計画の策定過程～

計画を策定するにあたって、まずは集まった中区に深い思い入れのあるワーキンググループメンバー(以下「メンバー」)に、中区の現状を共有してもらうため「こんな中区にしたい!」をテーマに、「自分たちの中区らしい地域福祉のあり方」について検討するところからスタートしました。メンバーからは、「会社や商業施設が多くて、地域に住んでる人が誰なのか顔が見えない」、「マンションもさらに増えてきて、町内会に入る方が少なくなってきて、顔が見えないような気がする」等、近隣でのつながりの薄さを感じるといったような意見や、地域でのボランティアの担い手不足、外国人住民との共生、生活安全面から治安、ゴミ捨て場などの問題が聞かれ、これらの現状を踏まえながら、活動計画ではこの状況をよりよくしていくために何をすべきかということを考え始めました。

## 4 第5次計画の方向性



第1次計画が策定されてから20年が経過し、当時と福祉を取り巻く環境は制度やサービスの面では大きく変わりました。しかし、地域福祉については、少子高齢化は進んだものの、変わらない部分もあります。特に「つながり」については、近年SNSといった新たなものが生まれ、若い世代を中心に新しい形のつながりづくりが行われています。人々がつながりを求めて、またつながることの必要性を感じていることに変化はありません。

そういった状況の中で、議論を重ねるうちに、共通のテーマとして、「居場所の問題」、「情報の問題」、「つながり」というようなところが見えてきました。実はこの3つのテーマには関連性があることがわかり、最終的に3つのテーマ「つながりづくり」、「人づくり」、「居場所づくり」に整理し、各ワーキンググループごとにメンバーを再編成し計画をまとめていきました。

### (1) つながりづくり ~「つながり」の新しい構築や拡充~

- これまで関係の無かったまたは関係性の希薄だった、分野の人たちや団体、グループ等を新たに「つながった」状態にしたり、既存のつながりがある方たちのつながりをさらに拡充したりすることを目的とするワーキンググループ。

### (2) 人づくり ~「担い手」や「人材」の発掘や充実~

- 地域での新たな「担い手」「人材」づくり(発掘)し、また養成したり、既存の人材を充実させることを目的とするワーキンググループ。手法としては、イベント、研修、意見交換会等の実施、何かを目的として集まり等が考えられる。

### (3) 居場所づくり ~新しい「居場所」づくりや既存の「居場所」の充実~

- 参加者が楽しい時間を過ごせると感じられたり、心を落ち着くような安らぎの時間が過ごせる場を作ることを目的としたワーキンググループ。参加者の生活の質が、向上するような効果のある場所を作ろうとするもの。

令和6年度から令和10年度の5年の実施期間、この3つのテーマのもとに、地域住民、高齢者・児童・障がい者の各分野の相談支援機関、団体、社会福祉法人、福祉サービスをはじめとした事業者、区役所始め福祉の向上、人権啓発及び住民交流の拠点としての機能を持つ中文化センターなどの行政機関と連携・協働しながら、私たちが安心・安全で幸せな生活を送ることができる地域を実現できるように計画を着実に進めていきます。





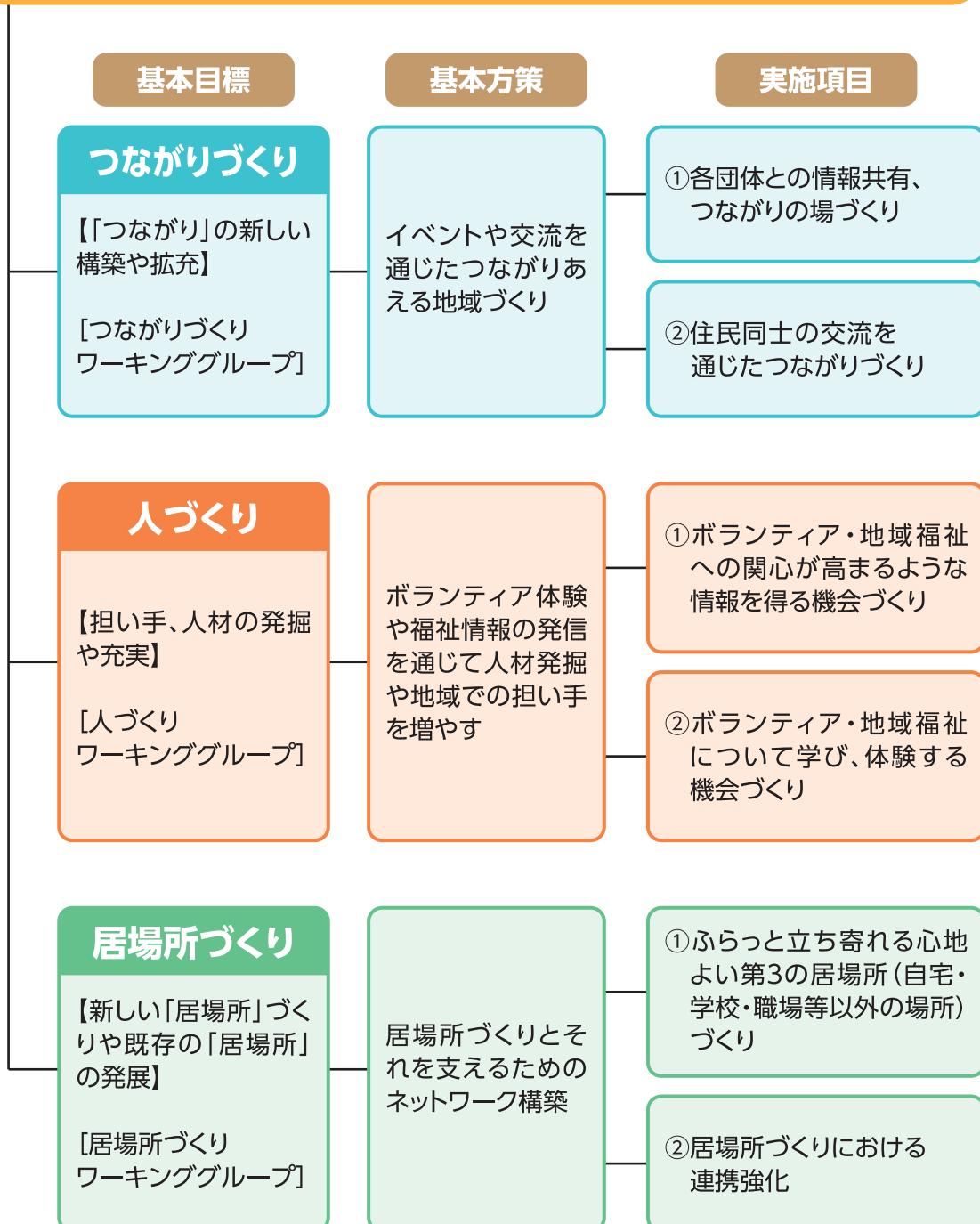
「第1回ワーキンググループ全体会」の様子





## (1) 体系図

## 基本理念：「みんながつながり 笑顔ひろがる まちづくり」



## (2) 各実施項目

### つながりづくりWG 実施項目①

基本目標	つながりづくり【「つながり」の新しい構築や拡充】
基本方策	イベントや交流を通じたつながりあえる地域づくり
実施項目	①各団体との情報共有、つながりの場づくり
実施項目の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中区は、多くのオフィスビルや商業施設、商店街があり、主要な行政機関も集まっていることから、行政や金融、商業などの中心地となっています。</li> <li>また、近年の地域福祉課題である8050問題、ダブルケア、ヤングケアラー、引きこもり等の課題は、中区でも随所で顕在し、分野を超えた多角的な支援やかかわりを必要とする多様で複雑な相談が増加しています。</li> <li>そのため、相談に対してより良い支援や幅広いアプローチができるよう、地域住民や福祉の支援機関、民間事業者、学校、行政等、様々な関係機関や人が、「世代」や「分野」、「立場」の壁を越えてつながり相談し合え、共に支援をすすめていける地域にするためのきっかけづくりやつながりの場づくりを進めています。</li> </ul>
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各団体が課題と感じていることや、また各団体が取り組んでいる事柄のうち、他団体と協働できそうなことを把握します。 例) 支援機関をめぐる「団体ツアー」、「異職種体験会」、「マルシェ」、「交流会」、「普及啓発活動」</li> <li>● 地域住民や福祉の支援機関、民間事業者、医療関係、学校、行政等、様々な関係機関や人が出会い、新たにつながれるきっかけづくりやイベントを開催します。</li> <li>● 学習会等を開催し、お互いの顔が見え相談し合える関係づくりを進めます。 例) 「職員サロン」や「オンライン勉強会」、「名刺交換会」、「社会資源MAPづくり」</li> </ul>
推進主体、関係機関・団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 推進主体 第5次計画推進委員会つながりづくりワーキンググループ</li> <li>● 関係機関・団体(想定される連携先) 区役所、名古屋国際センター、障害者基幹相談支援センター、中文化センター、いきいき支援センター、地域福祉推進協議会、区政協力委員会、民生委員児童委員協議会、老人クラブ、女性会、福祉関係施設・団体、寺院、子ども食堂、学校、医療機関、企業、コンビニ、スーパー など</li> </ul>

### 実施項目①「各団体との情報共有、つながりの場づくり」

取組スケジュール[年次計画]	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
調査		→			
企画・実施		→			
評価				→	

## つながりづくりWG 実施項目②

基本目標	つながりづくり【「つながり」の新しい構築や拡充】
基本方策	イベントや交流を通じたつながりあえる地域づくり
実施項目	②住民同士の交流を通じたつながりづくり
実施項目の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中区は、市内の中心部に位置するコンパクトシティである都心として、生活資源、社会資源へのアクセスの良さから転入者が多く、マンション住民が多いという特徴があります。また、近年、地域活動の縮小やご近所づきあいが減少し、孤独・孤立の問題が顕在化しています。福祉関係等の情報を住民同士で情報共有できず、必要な地域情報等を取得できない人もいます。特に、中区は人口の約1割が外国籍であり、単身者・単身高齢者世帯率も他区と比べて高いため、ひとり暮らし高齢者やひとり親家庭、障害者、外国人等が孤立すると、困りごとに直面した際に相談できる相手がおらず、問題が複雑化・深刻化しやすい面があります。</li> <li>そのため、地域住民同士の顔の見える関係づくりのきっかけとなるようなイベントの開催や交流の場を生み出すことで、地域活動の活性化を促していきます。また、必要な人に必要な情報が届くようSNS等を活用した情報発信の方法についても検討していきます。</li> </ul>
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新たなつながりを作った後、「人づくり」「居場所づくり」ワーキンググループ等へつなげていくようなきっかけを作ります。</li> <li>●地域住民とともに交流の場やイベントを企画・実施し、地域住民自身で継続していくつながりの場づくりを進めます。</li> <li>●必要な人に必要な情報が届くよう、SNS等を活用した情報発信の方法について検討していきます。 例) ちょっとしたイベントや講座、ボッチャ大会、昔の遊びなど多世代交流、マルシェ、相談室、サロン、防災訓練、清掃活動、ラジオ体操、街歩き、マンション団地交流会</li> </ul>
推進主体、関係機関・団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>●推進主体 マンション・団地住民、町内会、自治会、第5次計画推進委員会つながりづくりワーキンググループ</li> <li>●関係機関・団体(想定される連携先) マンション・団地管理組合・管理会社、区政協力委員、地域福祉推進協議会、区役所、名古屋国際センター、障害者基幹相談支援センター、中文化センター、いきいき支援センター、地域福祉推進協議会、区政協力委員会、民生委員児童委員協議会、老人クラブ、女性会、福祉関係施設・団体、子ども食堂、学校、寺院、医療機関、企業、コンビニ、スーパー、コミュニティセンター など</li> </ul>

### 実施項目②「住民同士の交流を通じたつながりづくり」

取組スケジュール[年次計画]	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
調査					
モデル実施					
本格実施					
地域住民への支援					
評価					



## 人づくりWG 実施項目①

基本目標	人づくり【担い手、人材の発掘や充実】
基本方策	ボランティア体験や福祉情報の発信を通じて人材発掘や地域での担い手を増やす
実施項目	①ボランティア・地域福祉への関心が高まるような情報を得る機会づくり
実施項目の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 福祉ボランティア情報ファイルや福祉協力店の活用方法の見直しをするため、現在、福祉協力店に置かれているの福祉ボランティア情報ファイルを、新しい情報が入っていない等の課題を改善し、情報更新をするとともに、これまで発信が十分でなかった方たち（学生、企業等）に届けます。また情報発信について、より効果的な活用方法を検討・実施します。</li> </ul>
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 福祉ボランティア情報ファイルをスマートフォンの活用等、形式も含め今のニーズに合ったものにしていき、住民に見てもらえる仕組みを工夫してつくります。</li> <li>● お店等に、困り事を把握し、つないでもらえるようにし、ニーズの集約機能を設けます。</li> <li>● ネーミングも含めて、やわらかい、分かりやすく目のひくものにしていきます。</li> <li>● 情報発信方法について、ホームページやSNS等を見直します。</li> <li>● 福祉協力店に会議に出てきてもらえるよう働きかけたり、仲間づくりや地域福祉の推進に貢献できるようにします。</li> <li>● 体験・イベントの場にて、情報誌や福祉情報をPRしたり、届ける活動を工夫します。</li> </ul>
推進主体、関係機関・団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 推進主体 第5次計画推進委員会人づくりワーキンググループ</li> <li>● 関係機関・団体（想定される連携先） 学校、企業、コンビニエンスストア、スーパー等の商店、郵便局、既存の福祉協力店、区役所、障害者基幹相談支援センター、中文化センター、いきいき支援センター、福祉関係施設・団体 など</li> </ul>

### 実施項目①「ボランティア・地域福祉への関心が高まるような情報を得る機会づくり」

取組スケジュール[年次計画]	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
調査、社協事業等啓発					
情報発信（インターネット連携）					
福祉協力店、情報ファイル見直し					
評価					

## 人づくりWG 実施項目②

基本目標	人づくり【担い手、人材の発掘や充実】
基本方策	ボランティア体験や福祉情報の発信を通じて人材発掘や地域での担い手を増やす
実施項目	②ボランティア・地域福祉について学び、体験する機会づくり
実施項目の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域での担い手を発掘するためには、前段階として、ボランティア体験や福祉教育を体験してもらうことが大切です。若い人ははじめさまざまな世代の方に福祉体験やボランティア参加をしてもらい、福祉についてもっと知ってもらえるよう、楽しいボランティア体験、興味をひくイベントの開催や学びの機会を設けて、地域での人材発掘や担い手探しのきっかけを作ります。</li> </ul>
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 楽しい体験ができる興味を引くようなイベントや、参加しやすい内容の企画をし(4次計画では「なかエンジョイボラ会」を実施)、若い人たちに福祉やボランティアに参加してもらい、社協を知ってもらったり、窓口になってもらえるようにします。</li> <li>● 現在はボランティアセンターLINEで発信をしていますが、社協とつながっている学校、専門学校、大学等のボランティアサークルにアクセスできるように働きかけ、学生ボランティアとなるような人材を発掘します。</li> </ul>
推進主体、関係機関・団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 推進主体 第5次計画推進委員会人づくりワーキンググループ</li> <li>● 関係機関・団体(想定される連携先) 学校、トワイライトスクール、区役所、障害者基幹相談支援センター、中文化センター、いきいき支援センター、地域福祉推進協議会、区政協力委員会、民生委員児童委員協議会、老人クラブ、女性会、企業、外国人支援団体 など</li> </ul>

### 実施項目②「ボランティア・地域福祉について学び、体験する機会づくり」

取組スケジュール[年次計画]	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
既存実施事業、イベントの充実			→		
新規企画・実施			→		
人材発掘				→	
評価					→

## 居場所づくりWG 実施項目①

<b>基本目標</b>	居場所づくり【新しい「居場所」づくりや既存の「居場所」の発展】
<b>基本方策</b>	居場所づくりとそれを支えるためのネットワーク構築
<b>実施項目</b>	①ふらっと立ち寄れる心地よい第3の居場所(自宅・学校・職場等以外の場所)づくり
<b>実施項目の趣旨</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●精神的に安心していることのできる場所としての「居場所」を福祉課題を抱え、それらの居場所を必要としている人たちのために、「気軽に安心して立ち寄れる第3の居場所」づくりを進めていきます。対象者に合わせたプログラム、ワークショップ等を実施し、孤立した方の外出のきっかけづくりや社会参加の機会を提供するとともに、誰もがふらっと立ち寄れるような居場所や気軽に来ることのできるような仕組みづくりを検討し、対話や交流が生まれる第3の居場所づくりを行います。</li> </ul>
<b>取組内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各種支援団体や既存のサロン、子ども食堂等と連携し、誰もが気軽に立ち寄れる居場所をつくります。 例)ひきこもりの方の社会参加、子ども(中高生、外国人世帯も含む)のための居場所づくり、学習支援、食支援(フードパントリーや子ども食堂)、多世代交流、子育て交流、地域食堂、朝ごはん食堂、長期休暇を利用した居場所の活用、放課後の小学生の居場所、マルシェ、野菜づくりを活かした居場所づくり、リユース会、ブックカフェ、ブックシェア など</li> </ul>
<b>推進主体、関係機関・団体</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●推進主体 第5次計画推進委員会居場所づくりワーキンググループ</li> <li>●関係機関・団体(想定される連携先) 区役所、保健センター、いきいき支援センター、中文化センター、名古屋市ひきこもり地域支援センター、名古屋市子ども・若者総合相談センター、名古屋国際センター、障害者基幹相談支援センター、地域福祉推進協議会、区政協力委員会、民生委員児童委員協議会、福祉関係施設・団体、ボランティア、子ども食堂、サロン団体 など</li> </ul>

### 実施項目①「ふらっと立ち寄れる心地よい第3の居場所づくり」

取組スケジュール[年次計画]	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
学習会の実施	→				
モデル実施		→			
継続展開			→		
評価					→

## 居場所づくりWG 実施項目②

基本目標	居場所づくり【新しい「居場所」づくりや既存の「居場所」の発展】
基本方策	居場所づくりとそれを支えるためのネットワーク構築
実施項目	②居場所づくりにおける連携強化
実施項目の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在、福祉課題は多様化、複雑化しており、既存の制度では対象になりにくいケースも多く、適切な支援が届いていない現状があります。これらをできる限り防ぐために、支援につながりにくく、孤立しがちな方が安心して過ごせる居場所を起点に個別支援や課題解決につなげていけるようなネットワークを構築し、社会参加プロジェクトの取り組み内容を検討していきます。また、サロンや子ども食堂等の連絡会や集いを実施し、既存の居場所の機能充実を図ります。</li> </ul>
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多様なニーズに関する勉強会を開催し、居場所での取り組み内容を検討し、理解者を増やし、居場所のコンセプトや取り組み内容を検討します。 テーマの例：子ども、生活困窮、ひきこもり、ダブルケア、ヤングケアラー、女性の支援など 例) サロン実践者のつどい、子どもの支援に関する連絡会、認知症カフェ交流会</li> <li>● 企業・支援団体・教育機関等の新たな連携先を開拓します。 例) 企業を支援する団体の交流会</li> </ul>
推進主体、関係機関・団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 推進主体 第5次計画推進委員会居場所づくりワーキンググループ</li> <li>● 関係機関・団体（想定される連携先） 区役所、保健センター、いきいき支援センター、中文化センター、名古屋市ひきこもり地域支援センター、名古屋市子ども・若者総合相談センター、なごや子ども応援委員会、地域福祉推進協議会、区政協力委員会、民生委員児童委員協議会、サロン団体、子ども食堂、学習支援団体、教育関係団体、企業 など</li> </ul>

### 実施項目②「居場所づくりにおける連携強化」

取組スケジュール[年次計画]	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
調査	→				
学習会の実施	→	→	①第3の居場所づくりと連動	→	
社会資源の新規開拓		→	→	→	→
連絡会の実施		→	→	→	→



# 6

# 計画の推進体制と評価



## (1) 推進体制

この計画は、活動の策定に関わった住民の皆さんを中心に、行政や関係機関の協力も得ながら推進する必要があります。第5次中区地域福祉活動計画の各ワーキンググループメンバーを中心として、この活動計画に関心のある方が参加して計画を実施し、年1回程度、第5次計画推進委員会を開催し各グループの情報共有化を図ります。

## (2) 評価と修正

中間年(計画3年目)を目途に第5次計画推進委員会にて、実施状況や社会背景を鑑みながら、総合的に内容を検証し、必要に応じて修正します。

<p><b>基本理念(3チーム共通)</b>：みんなつながり 実感ひろがる まちづくり</p> <p><b>基本方針</b>：地域資源を最大限活用する 地域資源をつなげてつなぐ 地域資源を育む・守る・活用する 地域資源を活用して、地域資源を育む 地域資源を活用して、地域資源を育む 地域資源を活用して、地域資源を育む</p> <p><b>中間目標</b>：地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化</p> <p><b>取り組み方針</b>：地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化</p> <p><b>取り組み内容</b>：地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化</p>	<p><b>基本理念(3チーム共通)</b>：みんなつながり 実感ひろがる まちづくり</p> <p><b>基本方針</b>：人と人とのつながりづくり つながりを大切に日本全国で</p> <p><b>中間目標</b>：地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化</p> <p><b>取り組み方針</b>：地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化</p> <p><b>取り組み内容</b>：地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化</p>	<p><b>基本理念(3チーム共通)</b>：みんなつながり 実感ひろがる まちづくり</p> <p><b>基本方針</b>：地元子育てワーキンググループ 地元資源を活用した地域活性化 みんなつながりで地域活性化</p> <p><b>中間目標</b>：地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化</p> <p><b>取り組み方針</b>：地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化</p> <p><b>取り組み内容</b>：地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化 地域資源を活用した地域活性化</p>
---	--	---

第4次中区地域福祉活動計画 中間評価シート

# 7 資 料



## (1) 第5次計画策定の経過

回	時期・参加数	内 容
第1回 策定作業委員会	令和5年5月22日(月) 出席:3名	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第5次中区地域福祉活動計画の策定について</li> <li>● ワーキンググループメンバーについて</li> </ul>
第1回 WG	令和5年7月27日(木) 出席:22名	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第4次中区地域福祉活動計画について</li> <li>● 第5次中区地域福祉活動計画の位置づけ</li> <li>● 策定スケジュールについて</li> <li>● グループワーク「こんな中区になるといいな!」</li> </ul>
第2回 WG	令和5年8月29日(火) 出席:24名	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前回の振り返り</li> <li>● グループワーク(取り組みたい実施項目)</li> </ul>
第3回 WG	令和5年10月3日(火) 出席:25名	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前回の振り返り</li> <li>● 3つのテーマについて 「つながりづくり」、「人づくり」、「居場所づくり」</li> <li>● グループワーク</li> </ul>
第4回 WG	令和5年11月7日(火) 出席:19名	<p>第1部 全体会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 前回の振り返り</li> </ul> <p>第2部 第1回各ワーキンググループ会議 「つながりづくり」、「人づくり」、「居場所づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 実施項目の検討</li> </ul>
第2回 策定作業委員会	令和5年11月20日(月) 出席:3名	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ワーキンググループ会議における進捗状況の報告</li> </ul>
第5回 WG	令和5年12月5日(火) 出席:21名	<p>第1部 全体会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 前回の振り返り</li> </ul> <p>第2部 第2回各ワーキンググループ会議 「つながりづくり」、「人づくり」、「居場所づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 実施項目の検討</li> </ul>
第6回 WG	令和6年1月22日(月) 出席:21名	<p>第1部 全体会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 前回の振り返り</li> </ul> <p>第2部 第3回各ワーキンググループ会議 「つながりづくり」、「人づくり」、「居場所づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 実施項目の検討、決定</li> </ul>
第3回 策定作業委員会	令和6年3月21日(木) 出席:3名	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 計画(案)の決定</li> </ul>
理事会・ 評議員会	令和6年3月25日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 計画、予算の承認</li> </ul>

## (2) 策定作業委員名簿(敬称略)

区分	氏名
中区社会福祉協議会会长	玉越 博(委員長)
学識経験者	花井 文治(副委員長)
中区社会福祉協議会 総括理事	大橋 浩

令和6年3月31日現在

## (3) ワーキンググループ名簿(敬称略)

### 第5次中区地域福祉活動計画 ワーキンググループ名簿(つながりづくり)

No.	氏名	所属等
1	伊藤 由香里	小規模多機能型居宅介護 かくれんぼ鶴舞
2	堀田 友三郎	中区住民・中鯱城会会长
3	角田 ちなつ	中区障害者基幹相談支援センター
4	蟹江 匠玄	丸の内学園名古屋福祉専門学校
5	玉腰 晓広	照見寺
6	津田 かずみ	地域食堂おいまつ
7	岩本 久子	名古屋国際センター事業課 主査
8	小島 亜也奈	中区役所福祉課主査(包括的支援等の推進担当)
9	熊倉 千晴	中区役所地域力推進室(多文化共生の推進担当主査) (令和5年5月～12月)
	宮崎 琢磨	中区役所地域力推進室係長
10	荻原 里奈	中区いきいき支援センター(見守り支援員)
11	中風 裕紀枝	中区いきいき支援センター(介護予防マネジャー)

令和6年3月31日現在

## 第5次中区地域福祉活動計画 ワーキンググループ名簿(人づくり)

No.	氏名	所属等
1	田中 巍	中区住民(橘学区)
2	渡辺 弘行	中区住民・防災士
3	小幡 幸恵	中区子育て支援ネットワーク なかっこ★ねっと代表
4	玉越 博	老松民生委員児童委員協議会
5	原田 真規子	社会福祉法人薰徳会池田作業所
6	木村 有里	JICA愛知デスク 国際協力推進員
7	丹羽 邦仁	前津福祉会館主事
8	花木 正始	中区役所総務課主事
9	鈴木 遥	中区役所福祉課係長
10	辻 洋美	中区介護保険事業所ミドルマネジャー

令和6年3月31日現在



## 第5次中区地域福祉活動計画 ワーキンググループ名簿(居場所づくり)

No.	氏 名	所 屬 等
1	大栄 真理子	中区住民・認知症予防リーダー
2	大橋 亮介	中文化センター係長
3	丸岡 裕	中区住民・元中区老人クラブ連合会会長
4	水野 千恵子	特定非営利活動法人かくれんぼ
5	入山 侑子	中区社会福祉協議会ボランティア
6	伊藤 由布子	千早学区主任児童委員・おばちゃん食堂
7	神森 珠美	前津児童館
8	風岡 佑輔	仕事・暮らし自立サポートセンター名駅主事
9	瀬古 かおり	中保健センター保健予防課(保健看護担当主査)
10	船橋 祐子	中区いきいき支援センター(総合相談マネジャー)
11	久保田 由美	中区いきいき支援センター(地域包括ケアマネジャー)

令和6年3月31日現在

#### (4) 第5次中区地域福祉活動計画策定作業委員会設置要綱

(目的)

第1条 中区における地域福祉活動を計画的に推進することを目的として、第5次地域福祉活動計画(以下「活動計画」という。)を策定するため、社会福祉法人名古屋市中区社会福祉協議会(以下「区社協」という。)に、第5次地域福祉活動計画策定作業委員会(以下「策定作業委員会」という。)を設置する。

(協議事項)

第2条 策定作業委員会は、活動計画の策定に関する事項について協議する。

(組織)

第3条 策定作業委員会は、次の各号に属する者を策定作業委員として構成し、区社協会長が委嘱する。

- (1) 区社協会長
- (2) 学識経験者
- (3) 区社協総括理事
- (4) ワーキンググループ代表者

2 策定作業委員会に委員長及び副委員長を各1名置き、委員長は区社協会長、副委員長は学識経験者とする。

3 委員長は、策定作業委員会を代表し、会務を掌理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(ワーキンググループ)

第4条 策定作業を円滑かつ効率的に進めるため、必要に応じてテーマごとの検討を行う「ワーキンググループ」を設置することができる。

(任期)

第5条 策定作業委員の任期は、活動計画の策定をもって終了する。

(会議)

第6条 策定作業委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。

2 策定作業委員会は、必要に応じて関係者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(庶務)

第7条 策定作業委員会の庶務は、区社協事務局において処理する。

(雑則)

第8条 この要綱に定めるものほか必要な事項は、区社協会長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和5年3月24日から施行する。

# 中区社会福祉協議会マスコットキャラクター いちょぴ



名 前	いちょぴ(本名:なかのとり いちょぴ)
年 齢	5歳
誕生日	12月1日
血液型	ハート♡型
性 格	元気いっぱいの頑張り屋さん
趣 味	中区のまちをおさんぽ(秋は銀杏拾い) パンジーの水やり
好きなもの	小倉トースト

チャームポイントは前髪、実は今はまだ飛べないのでおさんぽしている、夢は大きくなって飛ぶこと。毎日飛ぶ練習をしながら、社協のイベントにも参加している。



## 名古屋市中区社会福祉協議会 第5次中区地域福祉活動計画

発行日 令和6年8月

発 行 社会福祉法人 名古屋市中区社会福祉協議会  
〒460-0013 名古屋市中区上前津二丁目12番23号  
(中区在宅サービスセンター内)  
電話: (052) 331-9951 FAX: (052) 331-9953  
HP : <http://www.nakaku-shakyo.jp>  
E-mail : [nakakaku-shakyo@naka-fukushi.com](mailto:nakakaku-shakyo@naka-fukushi.com)